第2回 植田アニメ映画祭

:new era
新時代はじまる

© 2001 高橋留美子/小学館・読売テレビ・サンライズ・小学館プロダクション・日本テレビ・東宝・読売テレビエンタープライズ

映画 犬夜叉 時代を越える想い

監督：篠原俊哉
声の出演：山口勝平/雪野五月 ほか

2回限定
（一般上映なし）

10.4(土)
13:20~13:30 開会挨拶

① **13:30~15:40**
（コメンタリー付き上映）

ホスト：植田益朗
ゲスト：諏訪道彦(元 読売テレビプロデューサー)

本編：100分【35㎜フィルム上映／SCREEN7】
鑑賞料金：一般・シニア4,400円(学生・小人3,400円)

② **16:10~18:20**
（コメンタリー付き上映）

ホスト：植田益朗
ゲスト：諏訪道彦(元 読売テレビプロデューサー)

本編：100分【35㎜フィルム上映／SCREEN7】
鑑賞料金：一般・シニア4,400円(学生・小人3,400円)

【諏訪道彦氏プロフィール】

元読売テレビプロデューサー。深夜番組『11PM』のディレクターを経て、1986年『ロボタン』でアニメプロデューサーデビュー。以降、『シティーハンター』『YAWARA！』『名探偵コナン』『金田一少年の事件簿』『犬夜叉』『ブラック・ジャック』『魔法騎士レイアース』をはじめ、数多くのアニメをプロデュース。TM NETWORKの『Get Wild』を『シティーハンター』のエンディングテーマに起用し、本編エンディングからそのままイントロに入る形式など、アニメと音楽の関係性にも早くから着目。『名探偵コナン』に引き続き企画プロデュースした『犬夜叉』は、巨匠高橋留美子先生の戦国御伽草子風大河ドラマとして、2000年10月~2003年9月まで4年間放送。劇場版作品も4作を数える。現在は自ら立ち上げたアニメ作品全般の企画・プロデュース会社である株式会社 アスハPP代表取締役。大阪芸術大学専任教授。

©藤島康介／講談社 ©2000「ああっ女神さまっ」映画製作委員会

劇場版 ああっ女神さまっ

監督：合田浩章
声の出演：井上喜久子/菊池正美 ほか

STORY

女神・ベルダンディーと普通の大学生・螢一が出会って3年目の春。ふたりの前に、ベルダンディーのかつての恩師・セレスティンが現れ、彼女から螢一との記憶を奪ってしまった。更に、セレスティンは愛に傷ついた妖精姫・モルガルを使ってふたりの仲を引き裂こうと画策。実は、かつてセレスティンは新しい世界＝全ての愛に障壁のない世界を作る為、ベルダンディーを利用して神に反旗を翻したのだが、失敗して月面に投獄され、ベルダンディーもウルドによって記憶を消されていたのだ。

10.4(土)
10:20~10:30 開会挨拶

10:30~12:51
（10:30~11:00 トークイベント）

解説：氷川竜介

本編：111分【35㎜フィルム上映／SCREEN7】
鑑賞料金：一般・シニア3,800円(学生・小人2,800円)

【氷川竜介氏プロフィール】

アニメ・特撮研究家、明治大学大学院特任教授、認定NPO法人アニメ特撮アーカイブ機構(ATAC)副理事長。主な著書に「日本アニメの革新　歴史の転換点となった変化の構造分析」、「空想映像文化論 怪獣ブームから『宇宙戦艦ヤマト』へ」(いずれもKADOKAWA)など。

©1999少女革命ウテナ製作委員会

劇場版 少女革命ウテナ アドゥレセンス黙示録

監督：幾原邦彦
声の出演：川上とも子/渕崎ゆり子 ほか

STORY

全寮制の名門鳳学園に転校してきた、天上ウテナ。ある事件をきっかけに、志高く生きる決心をし、その決意から男装するようになった少女だ。「薔薇の花嫁」と呼ばれる謎めいた美少女、姫宮アンシーと出会った事をきっかけに、ウテナは「世界を革命する力」を奪い合う決闘ゲームに巻き込まれる。

10.5(日)

10:35~12:45
（12:00~12:45 トークイベント）

ゲスト：幾原邦彦(監督)
インタビュアー：藤津亮太

本編：85分【SCREEN1】
鑑賞料金：一般・シニア3,800円(学生・小人2,800円)

【幾原邦彦監督プロフィール】

アニメーション監督、原作、脚本。

TVアニメ『少女革命ウテナ』『輪るピングドラム』『ユリ熊嵐』『さらざんまい』、映画『少女革命ウテナ・アドゥレセンス黙示録』『Re:cycle of the PENGUINDRUM』と数々の作品の監督・原案を手掛ける。
その他、イクニプロデュース作品として、朗読劇リーディング・イン・ザダーク「春琴の佐助」、音楽LIVE「あの熊で待ってる」などを手掛ける。

ごあいさつ

なんてこった、2度も「植田アニメ映画祭」を開催することになるなんて。責任重大で冷や汗もんです。今年もタイトル選定に悩みに悩み、ようやく決まったのが「映画　犬夜叉　時代を越える想い」。とても愛着のある作品です。一言では語りつくせない。映画を皆さんと一緒に見ながら今年もたっぷり解説しちゃいます。私がホストでゲストは元・読売テレビプロデューサーの諏訪道彦さん。二人で語りつくします。どんな話が飛び出すことやら。不安もいっぱいですが、大いに期待もしてください。今から昔のことをじっくり思い出しておこう。

「植田アニメ映画祭」
企画・プロデュース・コメンタリー　植田益朗

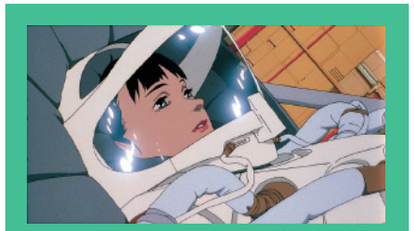
「どまんなかアニメ映画祭」は、昨年5月の第1回、今年5月の第2回と、多くの皆さまの温かいご声援に支えられてまいりました。さらに、昨年10月に開催した「植田アニメ映画祭」も第2回の開催が決定し、この秋は両映画祭をひとつにまとめた新企画「どまんなかアニメ映画祭：new era ＋ 第2回 植田アニメ映画祭」として新たなスタートを切ります。5月は80年代の名作を、10月は平成を代表する作品をお届けし、名古屋から年2回の恒例イベントとして発信してまいります。「new era」が意味するのは、まさに"新しい時代"の幕開けです。今回も豪華ゲストによる解説やトークイベントに加え、コメンタリー上映など特別な企画をご用意しました。90年代末から2000年代のアニメが持つエネルギーを、ぜひ名古屋のスクリーンで体感してください。

「どまんなかアニメ映画祭：new era」
総合プロデューサー　近藤良英

どまんなかアニメ映画祭 :new era

名古屋から年2回の恒例イベントとして発信

5月 どまんなかアニメ映画祭	10月 どまんなかアニメ映画祭 :new era
80年代の名作	平成を代表する作品



©2001 千年女優製作委員会

千年女優

監督：今 敏
声の出演：折笠富美子/小山茉美/荘司美代子 ほか

STORY

大手映画会社(銀映)の70周年記念事業の一環として、かつての看板女優・藤原千代子の半生を振り返るというドキュメンタリーの制作を依頼された、小さな映像制作会社・社長 立花源也。千代子の大ファンであった立花は、千代子のことなど知らない世代の若いカメラマン・井田恭二と、30年前人気絶頂にもかかわらず謎の失踪をとげ、公の場に二度と現れなかった"幻の女優"千代子の屋敷へ彼女の栄光と、30年の空白の謎を取材する為に向かった。

10.5(日)

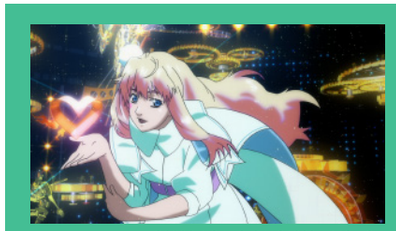
13:15~15:30
（14:42~15:30 トークイベント）

ゲスト：村井さだゆき(シナリオ)
インタビュアー：三崎智子

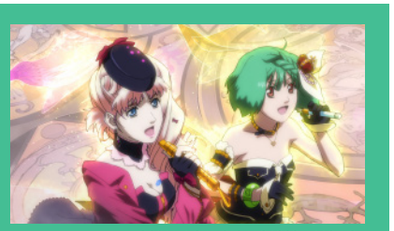
本編：87分【SCREEN1】
鑑賞料金：一般・シニア3,800円(学生・小人2,800円)

【村井 さだゆき氏プロフィール】

93年『飛べないオトメの授業中』で第6回フジテレビヤングシナリオ大賞受賞。劇場映画『パーフェクトブルー』『千年女優』『スチームボーイ』『蟲師』『BLAME!』などの脚本を担当。シリーズ構成作品として『鬻籠の匣』『夏目友人帳』『大雪海のカイナ』『想星のアクエリオン』など。現在、開志専門職大学アニメ・マンガ学部教授。



©2009 BIGWEST/MACROSS F PROJECT



©2011 BIGWEST/MACROSS F PROJECT

劇場版マクロスF ～イツワリノウタヒメ～

監督：河森正治
声の出演：中村悠一/遠藤綾 ほか

STORY

西暦2059年。超大型移民船団「マクロス・フロンティア」では1,000万人以上の人々が暮らしていた。パイロットを目指す少年「早乙女アルト」。銀河最強の歌姫「シェリル・ノーム」。シェリルに憧れる歌手志望の少女「ランカ・リー」。三人が出逢った時、誰も想像しなかった物語が幕を開ける。

劇場版マクロスF ～サヨナラノツバサ～

監督：河森正治
声の出演：中村悠一/遠藤綾 ほか

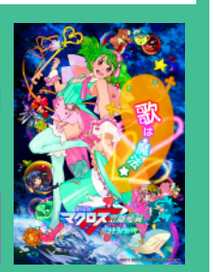
STORY

西暦2059年。宇宙移民船団マクロス・フロンティアはバジュラの襲撃を受けるが、若きパイロット「早乙女アルト」らの死闘により戦争は終結したかに見えた。しかしスターになっていく「ランカ・リー」と、死を予感しながらも高みを目指す「シェリル・ノーム」。二人の歌姫の秘密とバジュラの力を巡って陰謀の影が動き出す。

10.5(日) 2本立て
20:10~20:15 開会挨拶

16:00~21:00
（20:15~21:00 トークイベント）

ゲスト：河森正治(監督)
インタビュアー：石井誠



本編：劇場版マクロスF～イツワリノウタヒメ～120分／劇場版マクロスF～サヨナラノツバサ～115分【SCREEN1】
鑑賞料金：5,200円(割引料金なし)

【河森正治監督プロフィール】

アニメーション監督、企画、原作、脚本、映像・舞台演出、メカニックデザイナー等を手がけるビジョンクリエーター。

慶応義塾大学在学中に原作者の一人として携わったTV アニメーション『超時空要塞マクロス』、そこに登場する三段変形メカ、『バルキリー』のデザインも担当。
劇場作品『超時空要塞マクロス　愛・おぼえていますか』で23歳の若さで監督に抜擢される。以後、最新作『マクロスΔ』はじめ、シリーズ作品を生み出し続けている。

劇場版最新作は「迷宮のしおり」(2026年1月公開)。
2025 年大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーを務める。

一般上映スケジュール
10.3(金)~9(木)
詳細は公式Xにて公開中

特別鑑賞料金1作品(割引・無料券不可)
鑑賞料金：1,500円均一
※劇場版マクロスFは、各2,000円均一
※トークイベント・入場特典は付いていません

主　催：ミッドランドスクエア シネマ
企画制作：中日本エージェンシー
協　力：スカイフォール、アニメビジネスクリエイト
https://www.midland-sq-cinema.jp/top

©ミッドランドスクエア シネマ

MIDLAND SQUARE CINEMA
SCREEN 1・SCREEN 7

上映会場：ミッドランドスクエア シネマ

名古屋市中村区名駅4-7-1ミッドランドスクエア商業棟5F　TEL：052-527-8808

特別上映のため、各種割引、株主ご優待券、招待券、各種引換券はご利用いただけません。上映作品によっては、映像や音声などが乱れる場合がございます。何卒ご了承ください。各作品の上映時間は劇場HPにてご確認ください。登場者並びにスケジュール変更の際は何卒ご了承ください。登場者変更の場合でも他日への変更・払戻しはいたしかねます。